

支援者を体験！「ノートテイク・パソコンノートテイク」原文

講義名：哲学

テーマ：福祉国家の優生思想

講義時間：約3分

先生／えー、私たちがですね、陥りやすいのはですね、こういう考え方なんです。優生思想っていうのは、私たちの考え方とは関係なくて、ナチス・ヒットラーがやったことではないかっていうふうに、よく考えられてしまいます。ナチス・ヒットラーはですね、やったこと、ま、これからお話をしますけれども、えー、いろんなことをやるんですけども、その中で、その一、ナチス＝優生思想、っていうふうにですね、我々は短絡的に考えてしまって、自分とは無縁だというふうに考えている。しかし、よく考えてみるとですね、ある意味では、このナチズムっていうのは、この近代的な思想の中で、起こるべくして起こったというふうに考えてもいいものですね。つまり、近代的な、この、人間観の中に、いわばナチスをこう、まあ、引き起こしてくるような、そういうその考え方が実は、えー、ある、ということですね。で、そこに、えー、まず書いてありますけれども、なぜそういうふうに考えるかというところですね、えー、そこに書いてあるようにですね、ナチズム＝優生思想なのではないというので、いくつか挙げてますが、1つは、実は優生思想っていうのは、20世紀から1970年代の頃まで、いわゆる先進国では疑問視されることがなかった、ということですね。疑われることがなかった。悪質な遺伝子を持っている子供を産ませないようにして、そして、えー、良質な遺伝子を残していくのは当たり前じゃないか。それは人類の進歩にとってプラスじゃないか、っていうふうに考える考え方がですね、えー、ナチスのドイツだけではなくて、今日の、私たちの日本の中でも、1970年代ぐらいまでは当たり前と考えられていた。っていうことがまず1つですね。

それから2番目に、優生思想っていうのは、フランシス・ゴールトンという人が、えー、優生学というのを提唱し始めますが、そのイギリスから、ま、いわばですね、アメリカに伝わって、そしてアメリカで具体的なですね、法律として作り上げられていきます。最初のインディアナ断種法っていうのは、1907年にアメリカで作られて、その後、アメリカでは32州で制定されています。つまり、優生思想っていうのは、イギリスを発祥地としながら、アメリカで具体的に作り上げられていくことになります。